

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
ヒアリング実施校の取組概要

大学・短期大学名	長崎大学	整理番号	1-5-056
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域と連携した実践型医学教育プログラム ～現代版「赤ひげ」の育成を目指した長崎県五島列島における包括的保健・全人的医療教育の実践～		
申請単位	学部単位		
申請担当者	兼松 隆之		
<p>(取組の概要)</p> <p>医学部 5 年次全学生を対象として、長崎県の特徴である離島をフィールドとした、1 週間の「離島実習」を必修カリキュラムとして行う。本医学部では、病める人と良好なコミュニケーションができ、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しつつ（全人的医療）、病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭・社会への復帰や社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯に目指す（包括的保健）医師を育成することを教育理念としている。これを実践できる医師こそ 21 世紀に求められる医療人であり、人間味あふれた現代版“赤ひげ医師”とも言える。本取組は、本医学部の教育理念に基づいた実践型臨床実習であるとともに、地域（離島）医療に貢献できる医療人の育成ステップという点で特色的なものである。離島実習を通して現代版“赤ひげ医師”を育成することが、本取組の目的である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、長崎大学医学部の教育目標である「全人的医療」と「包括的保健」を実践出来る医師育成の為に、離島における医療体験等、学外の医療・福祉施設での実習を含めた教育課程であります。この取組の発端は昭和 55 年に始まる長崎県下の 10 島で学生が自主的に設定したテーマで行って来た多岐に亘る、臨床医学的、社会医学的実習で、参加学性は 20 年間に 300 人（15%）に及びます。今、医療過疎地帯と言われる県下離島で活動する医師の 50%以上が本学の卒業生であることは、この体験実習の成果であるとも言えるかもしれません。地域的特性を生かした、特色ある教育の取組と評価されます。</p> <p>これらの経験を生かして、今、離島医療実習・地域保険実習が組織的に始まりました。さらに、看護・保健学、歯学、薬学教育にも拡大する構想を持っておられます。大学を挙げての取組であり、県との連携も強固なものが見受けられます。教育を担当する寄附講座も開設されました。</p> <p>良医養成を医学教育の中心に据えている大学が多い時に、本学の取組は他の参考となるものと考えられますので、更に、本計画を実行・発展されて、成果を出されるよう期待しております。</p>			